

基礎をしっかりと学ぶように

理学部長 西川 恭 治



理学部に入学された新入生諸君、入学おめでとう。
さて、諸君が選んだ「理学」という学問は、自然の真理を探求することを目的としている。従って、何らかの応用を直接の目的とした学問とは異なるものである。このことは、理学

が応用に役立たないということではない。むしろ、目先の応用に捕らわれることなく、深く広い考察によって、自然を支配する基本的な法則に対する理解を深め、知的文化の創造に寄与し、ひいては長期的な意味での人類の進歩に貢献しようというものである。

このような「理学」を学ぶに当っては、あまり流行に追われることなく、自然現象についての素朴な疑問を大切にし、それらの仕組みを理解するために必要な基礎的な勉強に励むことが大切である。そのためには、諸君の日常生活においても、目先のことに捕らわれずに、広い視野にたつて、我々の先輩たちが長い歴史の中で築いてきた学問の本質を理解するように、時間をかけて深く考え、一つ一つしっかりと学んでいく習慣を身につけてもらいたい。

自然現象というものは、学べば学ぶほど、考えれば考えるほど、奥が深く興味を引かれていくものである。諸君が卒業するまでの四年間の間に、この喜びをどれだけ味わえるかは、一重に諸君自身の勉学への姿勢にかかっているのである。

雨二毛負ケズ

理学部学生 住田 秀 幸

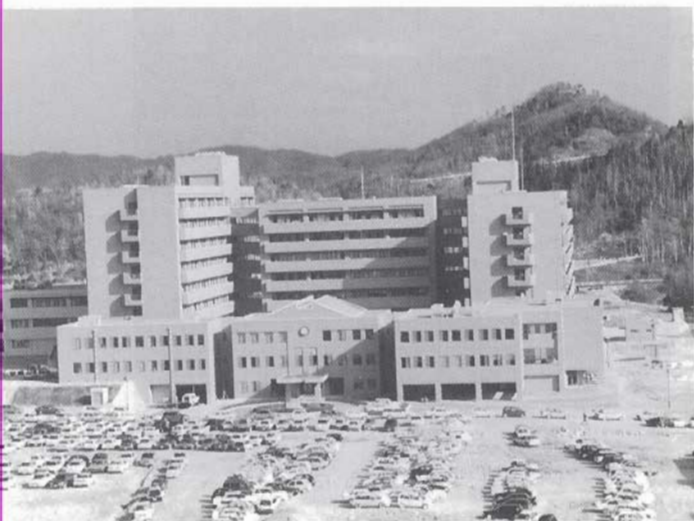


新入生の皆さん、ようこそ広島大学へ！皆さんは今、どんな思いを抱いているだろうか。恐らくそれぞれ違うことであらう。だから私にはどうしろなどとは言えないので、私の入学当時から現在までについて書こうと思う。少しでも参考になれば幸いです。

私の入学当時の決意は、勉強や遊びやその他のことをガンガンやり、ふと振り返ったとき、決して後悔することのない、そんな大学生活を送ることだった。しかし、現実として後悔したこともあった。挫折したり、日々の生活がいやになったこともあった。にも関わらず、私の大学生活は充実していると胸を張って言える。何故なら、そんな辛い事を忘れさせてくれる良き友人がいるからだ。私はそんな彼らに感謝している。そして、何年後になっても私は同じことを言っているだろう。

皆さんの大学生活にも辛い事はやって来ても知れない。だが、その大半は時が解決してくれる。

皆それぞれ、頑張っって欲しい。



理学部全景